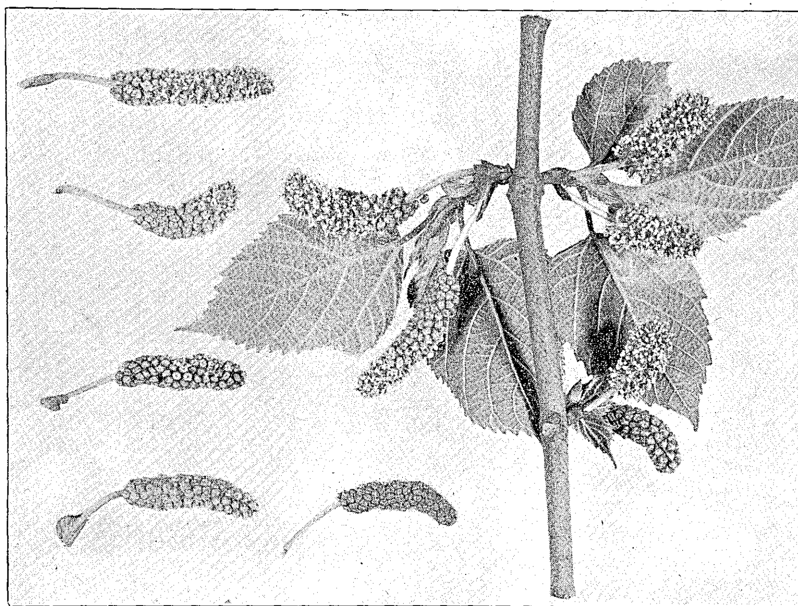
雜　錄　Miscellaneous

○かぢのきノ花粉彈出ニ就テ　（奥山春季）

5 月上旬、生品材料トシテ採集シタ開花中ノかぢのき (*Broussonetia papyrifera* VENT.) ノ雄性花穗カラ時々花粉ガ飛散スルケレドモ枝ヲ振リ動カシタノデハ別ニ花粉ハ飛バナイ。ソウシタ點ニ興味ヲ感ジ其ノ原因ヲ探究ショウト花瓶ニ挿シテ注意シテ居タ。成程時折パット花粉ガ飛散スル。ルーペヲトツテ花穗ヲノゾイテ見タガ既ニ開花シテシボミカケタ花カラ正ニ開花シヨウトスル蕾、マダ堅ク閉デテ居ル蕾等ガギッシリ竝ンデ居ルダケデ別ニ異常ガナイ。試ニ針ノ先デ正ニ開カウトスル蕾ノ中央ヲツツイテ見タ。所ガ突然花絲ガ飛ビ出シ花粉ヲ空中ニ彈キ出シタ。他ノヲツツイテ見タガヤハリ面白イ程パット花粉ヲ彈キ飛バス。



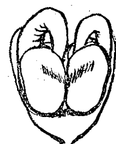
第 1 圖　かぢのきノ雄花穗

かぢのきハ雌雄ソノ株ヲ異ニシテ居ル事ハ御承知ノ通リデ、ヨクかうぞトノ區別點トシテアゲラレル所デアル。雄性花穗ニ就テ言ヘバ花梗ハ長 1.5〜3 cm 花穗ハ圓柱狀・密花・花時ニ於テ長 2.5〜7 cm 幅 8〜12 mm 許、花被ハ 4 裂・裂片ハ三角形・鈍頭・外面長軟毛ヲ布ク、雄蕊 4・花絲ハ長 3 mm 葯ハ長 1.5 mm・略〻腎形・2 室、雌蕊ハ缺如（追記參照）——デ

風媒花ト考ヘラレル。蕾ノ時代ニハ花絲ハ內側ニ曲ツテ圖ノ如ク4個ノ葯ヲ眞中ニシテ伸ヨクヲサマツテ居ル。ソレガ開花ト同時ニ花外ニ彈キ出テ花粉ヲ空中ニ飛散サセルノデアル。花絲ハゴム質デ內側ニ多數ノ横皺ガ認メラレル(寫眞參照)。開展シタ花絲ヲピンセットニテ內側ニ曲ゲテモ彈力性ガアリ容易ニ折レナイ。再ビ展開ノ位置ヲトル。卽チ花絲ノ伸展運動ノ機構ガ此處ニアル事ガウナヅケル。

コノ樣ナ花粉ヲ彈キ出ス植物ノ例トシテ *Urtica dioica* L.（我邦デハ一時ほそばいらくさニ當テラレタ事ガアル）又ひかげみづノ一種 *Parietaria officinalis* L. 等ガアゲラレ後者ニ於テハ雌花•雄花（同一株ノ）ノ熟期ヲ異ニシ自花受粉ヲ防イデ居ルト云フ樣ナ事ガ見エル。我邦ニ於テカヽル花粉彈出ニツイテ注意サレタ記錄トシテハ增訂草木圖說第一輯(1907) ノかてんさう (*Nanocnide japonica* BLUME) 條下ノ補記中ニ "雄蕊ハ花開クヤ其花絲突然彈伸シ以テ花粉ヲ糝ス" ト牧野博士ガ指摘シテ居ラレタノヲ一ツ見出シタダケデかぢのきニ就テノ記錄ハ見付ケル事ガ出來ナカツタ。尙標本ヲ通シテ見タ所ノかぢのきト同屬ノかうぞ (*Broussonetia Kazinoki* SIEB.) モヤハリヤルラシイ。Urticaceæ ノ大部分モソウデアルヤウダ。トニカク廣ク我邦ノいらくさ科品ニ當ツテ見テ此ノ點ヲ明カニシテオク必要ガアル。かぢのきハ中部以南ノ我邦ニ於テハ手近ニ得ラレルカラ教材トシテ風媒花中ニ是非コノ花粉彈出ノ項ヲ取入レラレル樣希望スル。


第2圖　雄花穗ノ一部擴大


第3圖　蕾ノ縱斷

晴レタ日かぢのきノ雄株ノ樹下ニ立チ空ヲ仰ゲバアチコチノ垂レ下ツタ花穗カラパッパット花粉ガ飛ビ出スノガ見ラレ頗ル興味ヲソソル。從來我邦ニ於テ問題ニサレナカツタ風媒花ノ花粉彈出ト云フ事ガ上述ノ如ク我々ノ手近ニ而モ容易ニ觀察出來ル事ヲ此處ニ報告シ諸賢ノ注意ヲ望ム次第デアル。

（追記） 金平博士ノ增補改版臺灣樹木誌 (p. 147 fig. 92) ノかぢのきヲ見ルト雄花ノ擴大圖ガアリ、ソノ雄花ノ中央ニ雌蕊ラシキモノガ2本花外ニ超出シテ居ル。私ノ見タ東京近郊ノモノデハ雄花ノ雌蕊ハ退化シルーペデハ見出シ得ナカツタ點ヨリ斯ル兩性花狀ノ顯著ナ形ガアルトシテモ少クトモ普通ノ形デハナイト考ヘル。下記文獻ニハ圖解ガアルカラ

參照サレタイ。白澤：複製日本森林樹木圖譜上編 tab. 38 (1929) 中井：朝鮮森林植物編第十九輯 tab. XXXIV. (1932) 寺崎：日本植物圖譜 483 (1933)〔本圖ハ續篇ニ於テ正誤ス〕同續篇 3483 (1938) 金平：增補改版臺灣樹木誌 l.c. (1936)

○ごしょいちごノ學名（御江久夫）

本種ハ東部支那產ト九州產ノ材料ヲ基トシテ *Rubus officinalis* KOIDZ. ト命名サレタモノデアルガ、支那產ニハソレ以前ニ胡先驌氏ガ付ケタ名ガアルノデ、先取權ハソレニ讓ラナケレバナラナイ。尙 HEMSLEY, FOCKE 其ノ他ノ人々ニ依ツテ支那ニモ *R. palmatus* THUNB. ガアル樣ニ報ゼラレテ居ルガ、ソレハ本種ヲ誤認シタ結果デアル。現在、支那ニ於ケル本種ノ分布區域ハ江蘇、浙江、安徽、福建ノ四省デアル。

Rubus Chingii HU in Journ. Arn. Arb. VI, p. 141 (1925) ut *Chungii*, vide ibid. VII, p. 70 (1926).

Rubus palmatus (non THUNB.) HEMSLEY in Journ. Linn. Soc. XXIII, p. 234 (1887) pro parte, quoad specim. e Ningpo—syn. nov.

Rubus officinalis KOIDZUMI in Bot. Mag. Tokyo, XLIV, p. 105 (1930)—syn. nov.

Distr. Japonia & China. (H. MIGO)

○しーぼるとのき（御江久夫）

コレハ長崎市、鳴瀧ノ SIEBOLD ノ宅跡ニ 1 本栽植サレテ居ルノデ大變有名デアル。九州デハ此ノ外、五島列島ノ中通島、有川ニモアルサウデアルガ、ソノ他ノ地カラハ未ダ報告ガ無イ樣デアルカラ、相當珍ラシイ樹ト言ヘル。所デ筆者ハ、コレヲ廣ク中南支ニ分布シテ居ル *Rhamnus utilis* DECNE. デハナイカト考ヘル。コノ支那植物ハ長崎產ト形態的ニハ勿論ノ事、腊葉ヲ作ル時ニ葉ガ黃色味ヲ增スト同時ニ多少黑味ガカツテ來ル點ニ至ル迄ヨク一致シテ居ル。學名ハ *Rh. utilis* f. *glabra* REHDER in Journ. Arn. Arb. XIV, p. 349 (1933) トス可キモノカモ知レナイガ、コノ品種ト基準種トノ區別點ハ、多數ノ標本ニ實際ニ當ツテ見ルト相當明瞭ヲ缺ク傾向ガ見エルノデ暫ク次ノ樣ニシテ置ク。

Rhamnus utilis DECAISNE in Compt. Rend. Acad. Sci. Paris, XLIV, 1141 (1857); SCHNEIDER in SARGENT, Pl. Wils. II, p. 240 (1914).

R. Sieboldiana MAKINO in Bot. Mag. Tokyo XXVI, p. 392 (1912)—syn. nov.

Distr. China. (H. MIGO)

○つるさはとらのを（御江久夫）

先年、筆者ハ江蘇省デさはとらのをニ逼枝ノ出タ恰好ノ植物ヲ採リ、新名ヲ下シタガ、ソレハ誤解デアル事ガ判ツタカラ次ノ樣ニ訂正スル。

Lysimachia parvifolia FRANCH. in Journ. Linn. Soc. XXVI, p. 55 (1889); HANDEL-MAZZETTI in Not. Bot. Gard. Edinburgh, XVI, p. 118 (1928).